

妖狐

淫紋奇譚

ようこ
いんもんきたん

第2話

Presented by

ふみひろ

妖狐
淫紋奇譚
ようこ
いんもんきたん

人里離れた山麓に
立っている小さな神社
そこに一人で住む巫女

ひいらぎ
柊といたかこの巫女
それにしても本当に
面白みの無い奴じやのう

ほとんど
人が殆ど来ぬ神社ゆえ
仕方ないのかもしれないが
掃除とお勤めを繰り返す
だけの毎日

感情も表に出さんし
まったく何が楽しくて
生きているのやら…

退屈な奴じゃが一つだけ
興味を引くことがある
この小娘巫女の癖にまったく
霊力を持つておらんことじゃ

本人も力がないことを
自覚しておるためか
日々黙々と繰り返す動めに
巫女でありたいという
必死さがにじみ出てる

山神を深く信仰しているが
名前だけの力無き巫女…
その行いは愚直で滑稽で
憐れみすら感じる

この小娘の心を折ったら
何が残るのか？という
まあ退屈しのぎの
戯言ではあったのだが…

山神様の…
御使い…？

そうじゃ

でだ…
心^{もてあそ}を折って弄ぶために
霊力を与える刻印と称して
淫紋を刻んで三日…

表面上は普段と
全然変わらんのう…

淫紋の効果で身体は
かなり火照っているはず
普通の人間の小娘では
一日も持たんのじゃが

湯浴みの最中や
床に着いた時でさえ
慰めるどころか一切
触ろうとすらせん

信仰のたまものか？
この小娘思った以上に精神力が
強いかもしれんな

ふふふ…面白い
その強靱な精神力を
如何にして折るか…じゃ

トッ



御使さま…
ここで霊力付与の儀式を
するのですか？

そうじゃここ数日
身体が熱いのでは
ないか？

それこそが霊力
儀式をもって自分の
物にするのじゃ

はいっ



暗い気にせず
奥まで進むのじゃぞ

何？
何か柔らかい物を
踏んでる…

いっぱい並んだ
大根のお漬物を
踏んでる様な感覚…





み…御使さま…
な…何故この様なことを？
これが儀式なのですか？
こ…こんな…服が…

おかしいです
お…おやめください
御使さま…

ふむ…
平然としておったから心配したが
ちゃんと紋は発動しておるの…
安心したぞ

ヒュー…

こ…これは…私に靈力を
与えてくださる御使さまの
神聖な御業…です

歩くだけでも
かなり来ておったはず
よく淫熱を我慢できて
おったのう

こ…この程度の
熱に流される…
訳には…

くう…あ

そ…それに私は
山神様に仕える巫女
淫蕩にふけるなど
あっては…

この淫紋から流れ出る淫熱は
あやかしですらそうそう
抵抗できぬのに力を持たぬ
人間の小娘が耐えるか…

ほう…



あれ……？
痛くない……？

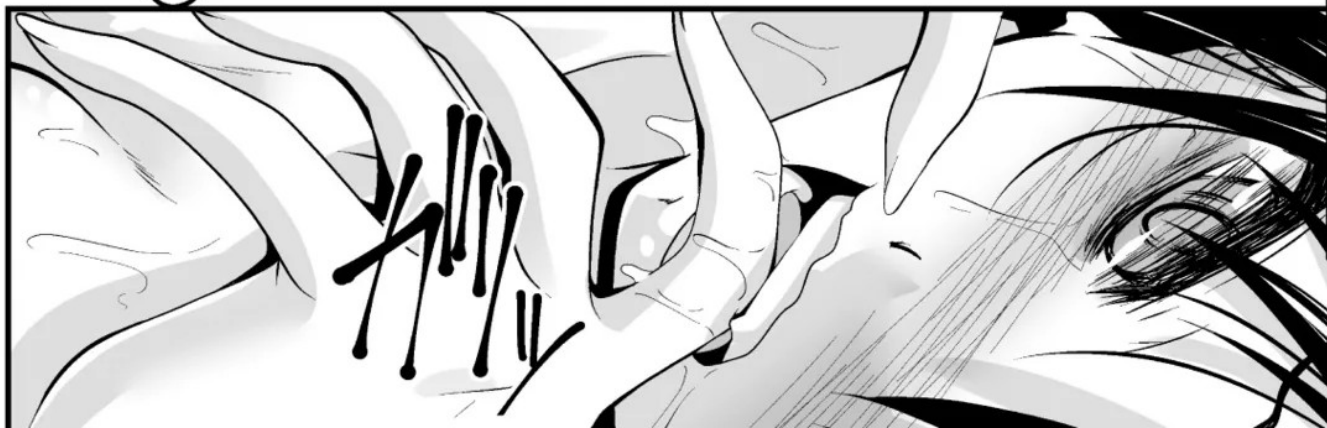
そ…それどころか…
一突き毎の…衝撃が
き…気持ちいい…
こんな…の…知らない
こんな快樂…初めて

だめ…耐えないと…
これは神聖な…儀式
声を出しちゃ…ダメッ

だめ…耐えないと…
これは神聖な…儀式
声を出しちゃ…ダメッ



我慢しておるのか？
淫紋が乗った官能じゃぞ
感じるまま声を出したら
どうじゃ



駄目えッ





お腹の中が...
なが...あッ

だめえっ

み...御使さまあ...
お...おかしくなる
わ...私おかしくッ







気を遣^やった
みたいじゃな
どうじゃ凄^{すご}いろう？

み…御使さま

こ…これで…
私に…私に…
霊力が…
宿^よって…

ああ…霊力か？
あれは嘘^{うそ}じゃ
人間の小娘^{こむすめ}よ

え…？

何…この白い波^{なみ}みたいなの
気持ちいいのが全身に…
こ…これが絶頂…？
これが…イ^いくつて…感覚？
凄い…で…でも…



み…
御使…さま？

私は妖怪じや
霊力の儀式も
山神の御使いも
全て戯言

まあ暇だったので
お主で遊んだだけじゃ
こんな感じにな



う…嘘…嘘です
そんな…私の…
私の純潔があ…
み…巫女の…うう

や…山神様あ
山神様ああッ

山神か？

そこは安心して良いぞ
お主を犯しているコレが
山神じゃ



山神様へのご奉仕は…
わ…私の巫女としての
お勤め…

そうじゃ
山神への奉仕は
巫女の役目じやろ
喜んで受け入れるが
良いぞ

や…
山神様…?
これが
山神様?

おひん
♡♡♡

や…やだ…きゅ…急に
気持ちよく…それも
さっきの…何倍も…凄い
山神様に…包まれて…
お腹の奥も…山神様が…





山神さま…が
お腹を挟って…

き…きもちいい
す…す…きもち
いいいよおッ

いつてますッ
ずっといつてます

イ…のとまらない
とまらないッ
イ…く…イ…ラッ

やまがみさまッ
やまがみしやまあッ

やまがみ…
やまがみ…
しやまあッ

完全にタガが
外れたみたいじゃな
心を折るとは少しばかり
違うかもしれんが…

それにしてもこんな
知性もない低位な妖怪を
神として祀^{まつ}っておるとはな…
鰯の頭も信心からという
やつか？

えへへ...

もうすぐ夜明けか
昼まで少し寝て
帰るとするか

そういえば「あるひつね」の
世話係が欲しかったのを
思い出したぞ

巫女の小娘…終を連れて
帰るのも良いかもしれんな
力はなくとも
あの精神力じや

昼まで壊れてなければ
頭の中を弄って信仰の対象を
私に書き換えるとするかの

二次元ドリームコミックス

妖狐淫紋奇譚

【第2話】

著 者

ふみひろ

装 丁

マイクロハウス

編 集

キルタイムコミュニケーション

発 行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル1F

●編集部 TEL.03-3551-6147 / FAX.03-3551-6146

●販売部 TEL.03-3555-3431 / FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fumihito

<http://ktcom.jp/>

【本作品のご意見、ご感想をお待ちしております】

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなどとしどしど書きください！

読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。

手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎

<http://ktcom.jp/goiken/>



◎手紙・ハガキの宛先◎

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル

(株) キルタイムコミュニケーション 二次元ドリームコミックス感想係

